

平成28年度 尾瀬国立公園シカ対策協議会

日時：平成29年3月7日（火） 13:30～15:30

場所：環境省関東地方環境事務所 会議室

次 第

1. 開会

2. 議事

(1) 協議会構成員によるシカ対策事業

- ① 林野庁 関東森林管理局
- ② 群馬県 環境森林部自然環境課
- ③ 福島県 生活環境部自然保護課
- ④ 栃木県 環境森林部自然環境課
- ⑤ 環境省 関東地方環境事務所

(2) 尾瀬におけるこれまでのシカ対策と今後の対策について

(3) 意見交換

(4) その他

3. 閉会

【配布資料一覧】

次第

座席表

議事資料

資料1 林野庁資料

資料2 群馬県資料

資料3 福島県資料

資料4 栃木県資料

資料5 環境省資料

資料6-1 尾瀬シカ対策の評価と今後の方向性の検討について

6-2 重要保全区域の検討経緯

資料7 尾瀬国立公園シカ対策協議会規約

平成28年度尾瀬国立公園シカ対策協議会出席者名簿

(敬称略)

所属	役職	氏名
関東地方環境事務所	所長	笠井 俊彦
関東森林管理局 計画保全部 保全課	野生鳥獣管理指導官	上野 文紀
	保護係長	黒澤 幸一
関東森林管理局 会津森林管理署 南会津支署	支署長	川原 聡
利根沼田森林管理署	森林技術指導官	高橋 和康
	森林技術普及専門官	竹之内 政勝
中越森林管理署	森林整備官	西梅 正太郎
福島県生活環境部 自然保護課	主事	佐川 優
福島県南会津地方振興局 県民環境部 県民環境課	主事	富田 悠介
福島県教育庁 文化財課	欠席	
群馬県環境森林部 自然環境課 尾瀬保全推進室	補佐	竹内 伸昌
	副主幹	力山 亜紀子
群馬県環境森林部 自然環境課 野生動物係	欠席	
群馬県教育委員会 文化財保護課	指導主事	小堀 高広
新潟県県民生活・環境部 環境企画課	欠席	
新潟県教育庁 文化行政課	欠席	
栃木県環境森林部 自然環境課	副主幹	黒川 徹
南会津町 環境水道課	環境衛生係長	馬場 信行
檜枝岐村 産業建設課	欠席	
片品村 農林建設課	課長補佐	星野 英二
魚沼市 環境課 環境対策室	副参事	羽鳥 由希雄
東京電力ホールディングス株式会社 リニューアブルパワー・カンパニー 水利・尾瀬グループ	グループマネージャー	中込 孝二
	課長	山村 明義
東京パワーテクノロジー株式会社 尾瀬林業事業所 環境保全グループ	グループマネージャー	中馬 慎二
尾瀬山小屋組合	組合長	関根 進
財団法人 尾瀬保護財団	主任	蛭間 啓

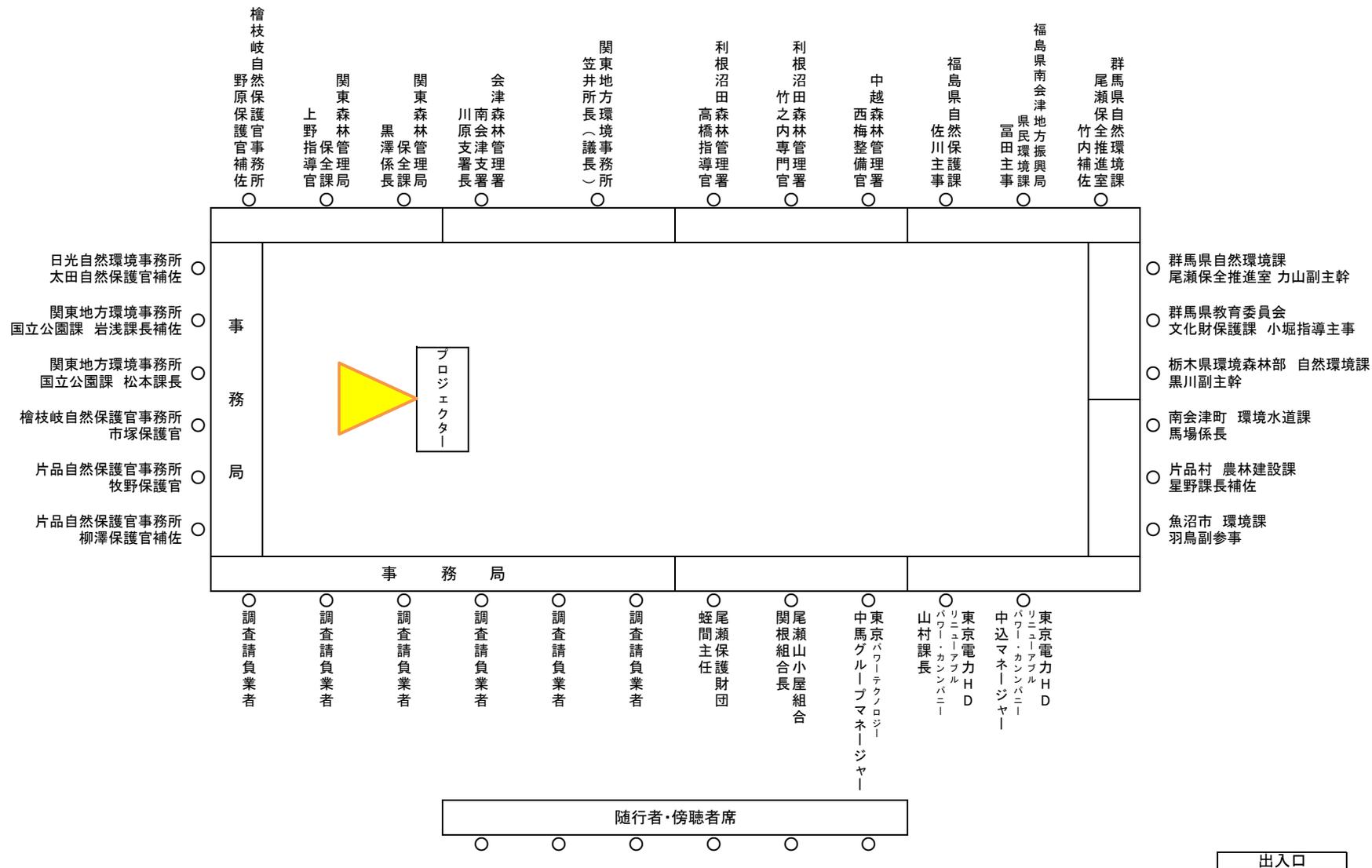
【事務局】

所属	役職	氏名
関東地方環境事務所	国立公園課長	松本 英昭
	課長補佐	岩浅 有記
檜枝岐自然保護官事務所	自然保護官	市塚 友香
	自然保護官補佐	野原 英廣
片品自然保護官事務所	自然保護官	牧野 友香
	自然保護官補佐	柳澤 美果子
日光自然環境事務所	自然保護官補佐	太田 祐司
エス・アイ・エイ株式会社	部長	淵脇 智博
	技師	宮本 留衣
株式会社 野生動物保護管理事務所	上席研究員	姜 兆文
株式会社 ROOTS	代表	山田 雄作
一般財団法人 自然環境研究センター	部長	黒崎 敏文
	主任研究員	野口 大輔

平成28年度 尾瀬国立公園シカ対策協議会 座席表

平成29年3月7日(火)

関東地方環境事務所 会議室



大江湿原における防鹿柵の設置について

平成28年度 尾瀬国立公園シカ対策協議会

関東森林管理局 会津森林管理署南会津支署

- ・ 尾瀬の生態系保全を目的に、ニッコウキスゲをはじめとする大江湿原の植生をシカの食害から保護するため、湿原の周囲約3.5 kmに防鹿柵を設置。南会津尾瀬ニホンジカ対策協議会と連携した取り組みを進めている。
- ・ 湿原内のシカ目撃数も大幅に減少
(平成22年8月：20頭 →平成28年8月：2頭)

【事業経過】

- ・ 平成25年度
資材運搬、
設置試験（耐雪試験）
- ・ 平成26年度以降毎年設置

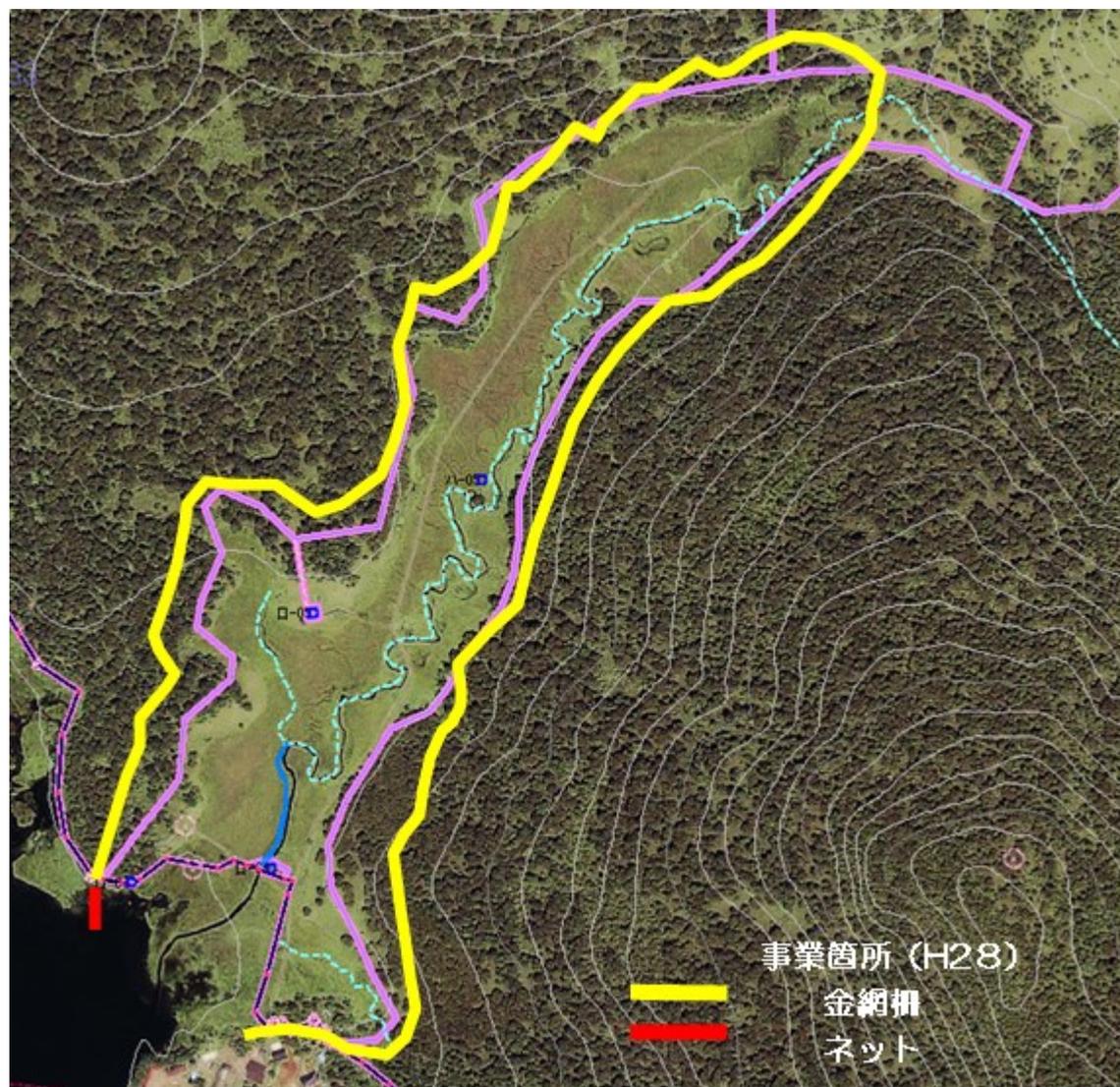
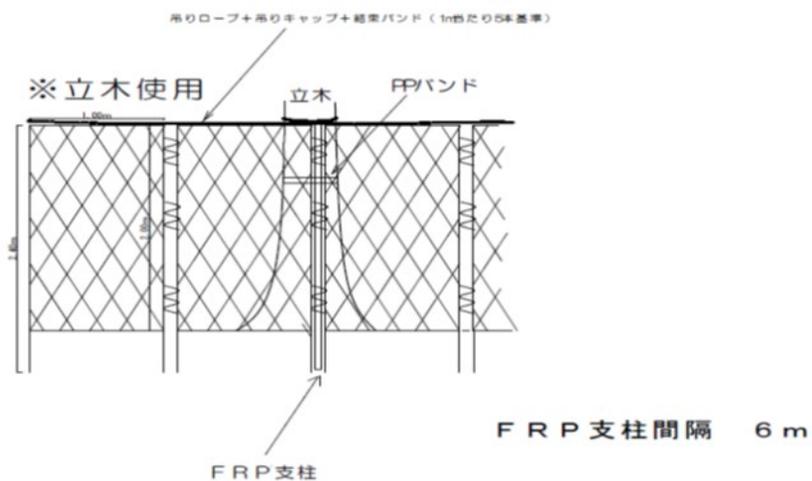
【工程】（平成28年度）

- 5月 発注、
- 6月 柵の設置、
- 7月～9月 巡視、
- 10月上旬 取り外し
(豪雪対策)



尾瀬国立公園「大江湿原」

大江湿原獣害対策事業 位置図



大江湿原獣害対策事業(センサーカメラ設置箇所)



浅湖(アザミ)湿原から
大江湿原に侵入

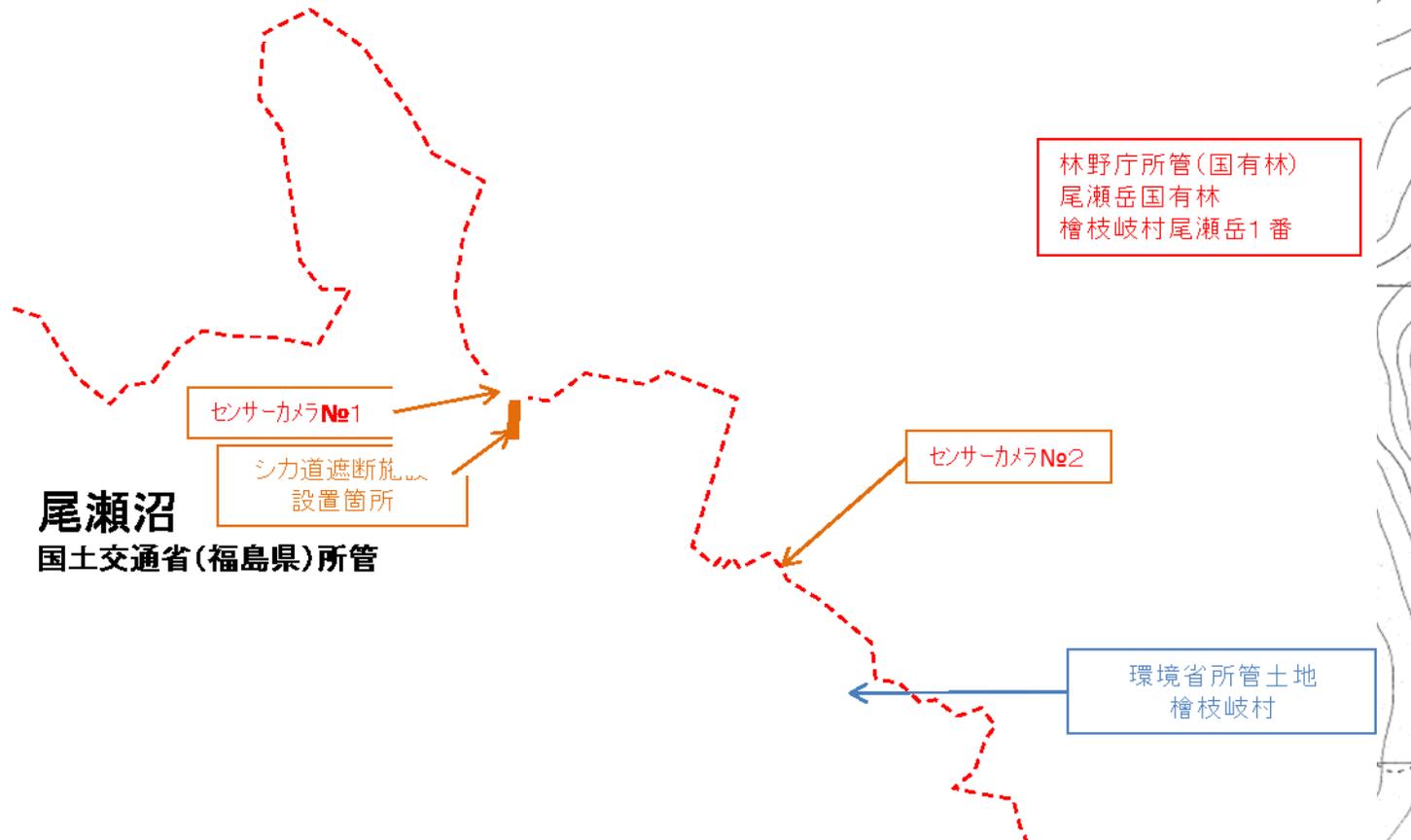
至、尾瀬ヶ原
・片品村



センサーカメラNo.1



センサーカメラNo.2



【平成28年度事業の成果】

- ・ 昨冬の歴史的少雪により沼の水位が低下、シカの始動も早く、5月中旬の環境省によるライトセンサスでは湿原内で14頭目撃。
→ 早期発注によりシカ柵の設置を6月上旬に完了（例年6月下旬に完了）
- ・ 一方で柵設置後は大幅に減少し、年間の目撃数は低水準で推移するなど一定の成果。

【本年の設置状況】



【本事業の課題】

- ・ 設置コストの低減
→ 柵に角が引っかかるなど維持管理に一定の費用を要する。事業受注者と相談し、創意工夫を重ねる。
- ・ 本年のように雪の量が少ないとシカの始動が早まり、設置が追いつかない
→ 早期発注に努める。
- ・ 防護だけではシカも慣れるので、くくりわな等で根気強く捕獲する必要。

【被害と対策】



食害に遭った水芭蕉



センサーカメラが捉えた映像



くくりわなにかかったシカ

平成28年度 群馬県尾瀬シカ対策について

1 目 的

尾瀬ヶ原を中心に、シカによる湿原の踏み荒らしやミズバショウなどの食害が深刻化しており、尾瀬の風景が荒廃する危険があるため、「尾瀬国立公園シカ管理方針(平成21年3月)」の最終目標である「尾瀬からのシカの排除」を目指し、もって尾瀬全体の植生の荒廃を防ぐことを目的とする。

2 事業内容

環境省の調査結果を活用し、尾瀬ヶ原と日光方面とを行き来するシカの移動経路上での捕獲を、シカが移動する春期と秋冬期の年2回、地元猟友会等に委託して実施。

なお、捕獲を実施することに伴いシカの移動経路等が変更することが予想されるため、自動撮影カメラを設置してシカの行動を調査し、以降の捕獲に活用する。

3 春期捕獲

(1) 事業主体 群馬県尾瀬シカ対策協議会

※構成員：群馬県、片品村、尾瀬山小屋組合、東京電力ホールディングス(株)、
(公財)尾瀬保護財団

(2) 捕獲箇所 丸沼一ノ瀬地区

(3) 捕獲期間 平成28年4月2日～4月28日(27日間)

(4) 実施方法 くくりわな

(5) 捕獲頭数 75頭(オス33頭 メス42頭)

4 秋冬期捕獲

(1) 事業主体 群馬県 ※指定管理鳥獣捕獲等事業を活用

(2) 捕獲箇所 丸沼一ノ瀬地区、国道401号沿線

(3) 捕獲期間 平成28年10月16日～平成29年1月23日(100日間)

(4) 実施方法 くくりわな、銃猟

(5) 捕獲頭数 58頭(オス39頭 メス19頭)

5 平成28年度捕獲実績 133頭(オス72頭 メス61頭)
(捕獲期間127日間)

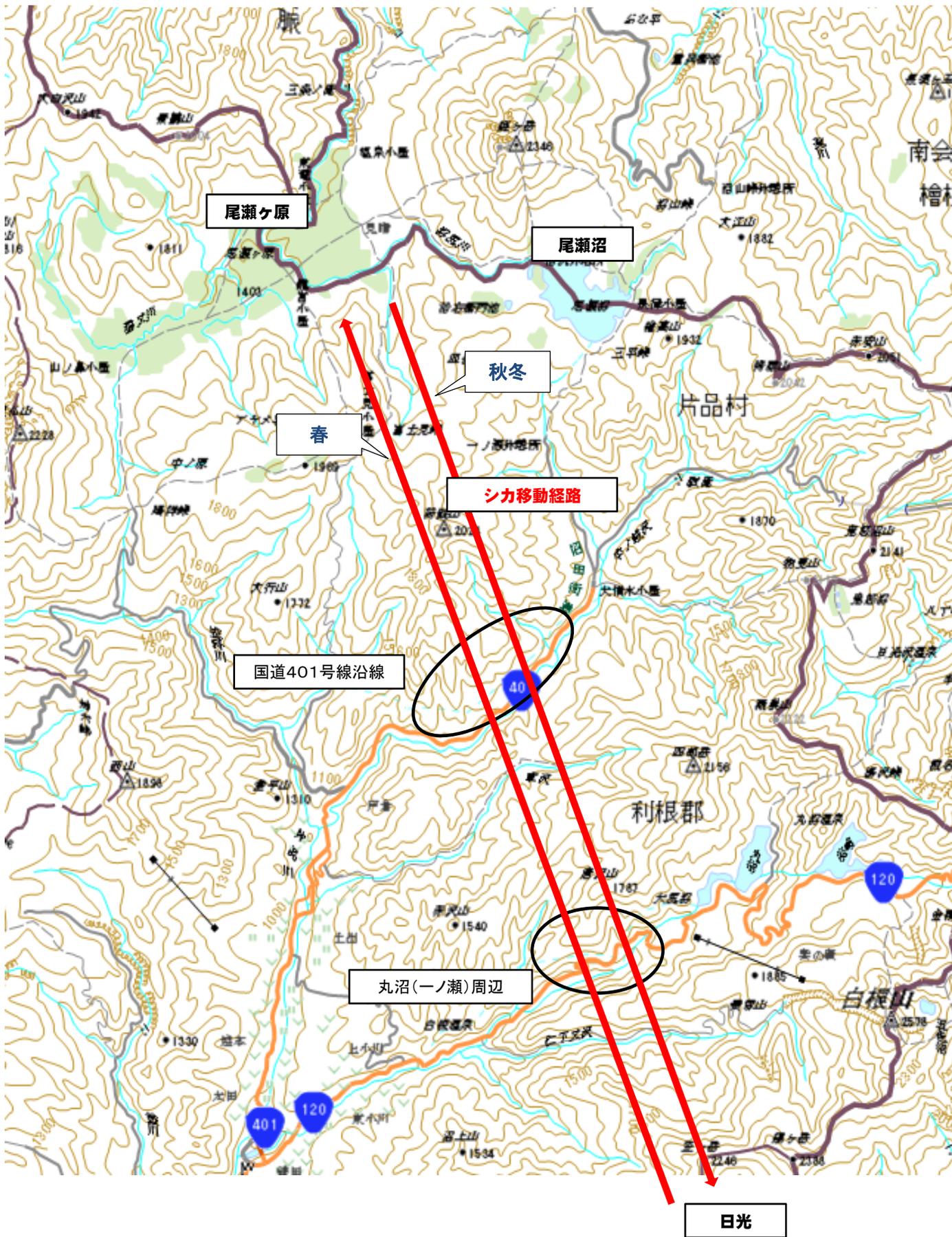


くくりわな設置箇所



地元猟友会によるわな設置

平成28年度群馬県尾瀬シカ対策実施箇所



平成 28 年度尾瀬のニホンジカ対策事業について

福島県自然保護課
南会津地方振興局

1 事業概況

ニホンジカによる尾瀬の湿原植生の攪乱が大きな問題となっていることから、尾瀬の貴重な湿原生態系を保全し、本県の優れた生物多様性の保全を一層推進するため、関係機関・団体による「※南会津尾瀬ニホンジカ対策協議会」を平成 25 年 6 月に設立し、地域が一体となって、尾瀬周辺での捕獲や被害防除等の効果的な対策を講じてきた。

また、平成 28 年 9 月から指定管理鳥獣捕獲等事業を開始し、協議会での捕獲は県が同事業で実施することになった。有害捕獲については従来どおり市町村が県の許可のもと行っている。

※南会津尾瀬ニホンジカ対策協議会

檜枝岐村、南会津町、福島県猟友会南会津支部檜枝岐分会、尾瀬檜枝岐温泉協会、
尾瀬保護財団、尾瀬山小屋組合、福島県南会津地方振興局

*オブザーバー：環境省檜枝岐自然保護官事務所、会津森林管理署南会津支署、福島県

2 事業実績

(1) 捕獲等事業の実施

尾瀬国立公園特別保護地区及び周辺地域における被害の軽減を図るとともに、ニホンジカの効率的な捕獲方法の検討及び実証を目的として、以下のとおり捕獲等事業を実施した。

ア 指定管理鳥獣捕獲等事業の実施（事業実施主体：福島県）

福島県全体でニホンジカ 700 頭を捕獲する計画を策定。南会津地域の目標捕獲数は 560 頭で、従来、協議会が捕獲してきた実施場所は効果的捕獲促進区域とし目標捕獲数 280 頭。事業の詳細は下記のとおり。

	実施内容
実施期間	平成 28 年 9 月 2 日（金）～平成 29 年 3 月 31 日（金）
実施場所	別紙「区域図」のとおり
実施方法	銃猟（巻狩り、忍び猟、車両を用いたモバイルカリング等） 及びわな猟（くくりわな、囲いわな等）

イ 有害鳥獣の許可捕獲による捕獲（実施主体：南会津町、檜枝岐村）

尾瀬の植生被害防止などを目的に有害鳥獣捕獲等許可によるニホンジカの捕獲を実施。詳細は下記のとおり。

	実施内容
実施期間	平成 28 年 4 月 28 日（木）～平成 28 年 11 月 18 日（金）
実施場所	南会津町館岩地域内、檜枝岐村全域
実施方法	銃器を用いた捕獲（巻き狩り）、追い込みネット・くくりわなを用いた捕獲

ウ くくりわなの貸し出しについて（事業実施主体：南会津尾瀬ニホンジカ対策協議会）

その他事業として、尾瀬国立公園の田代山方面での捕獲を実施するため、森林管理署が購入したくくりわな12基を借り入れ、南会津尾瀬ニホンジカ対策協議会経由で猟友会館岩支部の会員にわなの貸し出しを行った。猟友会館岩支部のわなによる有害捕獲実績は7頭。

(2) 湿原植生の保護（事業実施主体：南会津尾瀬ニホンジカ対策協議会）

大江湿原周辺において、ニホンジカによるニッコウキスゲの食害を防ぐため、開花・結実シーズンに森林管理署が大江湿原周辺に設置したシカ侵入防止柵の巡視等を実施した。

	実施内容
巡視区域	大江湿原周辺（別紙地図のとおり）一周約3.5km
巡視期間	平成28年7月15日（金）～8月24日（水）（計6回）
巡回時間	10時～13時（実施日による変動有）
巡視人員	1回の巡視につき原則として3人1組 延べ人数約15人
巡視方法	1) 柵周辺におけるシカの痕跡調査 食痕やシカ道等の確認 2) シカ等による柵損傷箇所の補修 柵が折り曲げられたり、破られた箇所の補修及び森林管理署への情報提供
実施結果	1) 柵周辺におけるシカの痕跡調査 ・ シカによる食痕やシカ道等は確認されなかった。 2) 柵補修と柵周辺におけるシカ移動状況 ・ 数箇所ほどシカや小型獣等による衝突痕と思われるものを確認したが、柵が破られた形跡はなかった。 ・ 柵の下部にシカによるものと思われる小さな衝突痕が何度か確認されたため、巡視の際に手作業で損傷箇所を補修した。 ・ くくり罠のかけ外れが何度か確認されたため、巡視員でかけ直しを行った。難しい場合は猟友会檜枝岐分会に報告しかけ直しを依頼した。 3) 昨年度との比較 ・ シカ侵入について、昨年度は柵側からの侵入はなく、柵未設置箇所（集団施設地区側）から侵入した個体が数頭確認された程度であった。今年度は柵設置前にシカ数頭が侵入し、一時は食害被害も見られたが、追い出し後は侵入個体も少なく、ほとんど食害被害は見られなくなった。 ・ ニッコウキスゲ食害について、昨年度と比較して、大江湿原の食害被害は減少した。一方で、雪解けが早かったためか、春先に被害があった。

日光地域シカ対策共同体の取組（平成 28 年度）

1. モバイルカリング試験（実施主体：栃木県林業センター）
 - ・トラックの荷台に射手を乗せて低速で走行し、発見したシカを射撃する手法。日光市道 1002 号線弓張峠～千手ヶ浜間 4.8km で実施。
 - ・平成 28 年 4 月 8 日、14 日～15 日、21 日～22 日の計 5 日間実施
 - ・回収班や規制班として協力

2. 高山地域でのわな捕獲試験（実施主体：栃木県林業センター）
 - ・白根山周辺でのくくりわなによるシカ捕獲試験
 - ・平成 28 年 7 月 11 日～7 月 14 日、18 日～21 日に実施
 - ・荷揚げやわな見回りの協力

3. 有害鳥獣捕獲（実施主体：日光市）
 - ・奥日光や足尾地域での巻き狩りによる捕獲事業
 - ・平成 29 年 2 月～3 月に実施
 - ・道路等の規制や安全管理への協力、捕獲個体のモニタリングを実施

4. わな捕獲についての研修（実施主体：日光森林管理署）
 - ・森林管理署職員に対する技術研修
 - ・平成 28 年 7 月 28 日に実施
 - ・林業センター職員が講師として参加

5. 共同体情報交換会の開催
 - ・各機関からの情報提供、実施予定事業への協力体制等打ち合わせ
 - ・5 月と 1 月の 2 回開催



モバイルカリング